

## 政策評価委員会について

### 1 政策評価委員会の目的と役割

政策評価委員会は、主に基本計画の進捗管理を目的としており、平成28年度から令和元年度にかけて、施策を抽出して外部評価を実施した。

後期基本計画の策定においては、進捗管理の視点から、後期基本計画（素案）の「指標」及び「目標値」について点検を行った。

### 2 これまでの検討スケジュール

	令和2年度			令和3年度								
	～1月	2月	3月	4～6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月	
基本計画	前期の評価と後期計画策定方針の検討			後期計画の具体的内容の検討						パブリックコメント	答申	
基本構想 審議会	第1回 11/11	第2回 2/26	第3回 3/22		第4回 7/20 第5回 7/28		第6回 9/2					
	全体スケジュールと進め方	前期基本計画の進捗状況	課題整理と検討の方向性		政策・施策の体系、施策と指標、目標値		基本計画素案（重点施策の選定）					
指標、目標値の設定プロセス	政策評価委員会① 9/15	指標に関する課題整理	基本構想審議会において「議論の方向性」を審議	指標と目標値の設定作業	基本構想審議会の指摘等を踏まえた見直し	後期基本計画（素案）	政策評価委員会① 11/2	点検	政策評価委員会② 1/17			

### 3 政策評価委員会の構成

職名	氏名	役職等
委員長	原田 久	立教大学法学部教授
委員	猪岐 幸一	公認会計士
委員	大崎 映二	行政アドバイザー
委員	藤田 由紀子	学習院大学法学部教授
委員	益田 直子	拓殖大学政経学部准教授
委員	奥島 正信	豊島区政策経営部長
委員	藤田 力	豊島区総務部長

※政策評価委員会は条例に定める附属機関であり委員の任期は1年

### 4 政策評価委員会と後期基本計画（素案）策定作業の関わり方

#### (1) 「政策評価委員会における課題整理」及び「基本構想審議会の議論の方向性」

課題1	現計画で適切でない指標をどう見直すか 【方向性】より適切な指標（目標値を含む）を設定する方向で議論
課題2	施策の定量化が難しい側面をどう評価していくか 【方向性】施策そのもののあり方や「区民意識調査」の活用と合わせて議論
課題3	基本計画（2025年）とSDGs（2030年）の目標年限との整合をどう図るか 【方向性】2030年に向けた中間目標として2025年を位置付ける方向で議論
課題4	SDGsの視点による指標をどう活用するのか 【方向性】国の示すSDGs指標などから、活用できるものを参考にする方向で議論

#### (2) 「指標」及び「目標値」を設定するにあたっての方針

基本構想審議会でご議論いただいた「議論の方向性」を踏まえ、設定した基本の方針に基づき、各所管課が実際に「指標」と「目標値」の設定作業を行った。

[後期基本計画における指標および目標値の設定方針（抜粋）]

- ・ 定量的な指標として長期的に施策の進捗を測れる指標であること
- ・ 外部環境の変化を受けにくく他自治体と比較可能な指標であること
- ・ 目標値は設定根拠が明確であり、かつチャレンジングな目標値であること

## 5 令和3年度第1回政策評価委員会における議論

### (1) 開催日時

令和3年11月2日(火) 18:00~19:30

### (2) 議論の具体的方法

68施策について指標と目標値の設定根拠をまとめた表(資料2)に基づき、指標および目標値の点検を行った。

### (3) 意見要旨

#### 【指標の設定について】

- ①「目指すべきまちの姿」と指標が整合しているかについては再度点検した方が良い。特に、後期基本計画の「目指すべきまちの姿」が区民の活動を増やしたいのか、意識や認識を高めたいのか、といった違いに着目して設定することが望ましい。
- ②「成果を測る参考指標」はアウトカムであることが基本であることを前提に、再度点検する必要があるのではないかと。

#### 【目標値の設定について】

- ①目標値は、本来「あるべき理想の値」に近づけることが望ましいが、明らかに達成不可能であっても意味がない。また、「明らかに達成可能な値」も意味がない。達成可能な水準から、チャレンジ的な要素を加味した値に設定することが望ましい。
- ②ほとんどの施策において、目標値に向かって毎年度同率で伸びることが想定されている。しかしながら、実際は効果が遅れて現れるなど、成果の伸びが曲線を描く施策もある。現時点で計画への反映は難しいと考えるが、しっかり議論する必要がある。
- ③DV相談件数などは、施策の進捗によって、ある時点で増やすより減らすことを目的とすべき指標ではないか。「相談に対する認知の高まりによって目標値が変わる可能性がある」などの前提条件を把握することが重要である。
- ④アンケートによる指標は、世の中の動向に大きく影響を受けるので、進捗を評価する際には、そうした動向を踏まえたうえで結果を解釈していく必要がある。

## 6 今後の予定

第2回 令和4年1月17日(月) 18:00-20:00

議事予定：基本計画の進捗管理方法(施策評価方法)について  
基本計画指標とその目標値の確認結果のご報告



## 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 <small>(2021年) ※お問い合わせは2020年 以前のデータ</small>	目標値 <small>(2025年)</small>	参考値 <small>(2030年)</small>	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 <small>(2021年) ※お問い合わせは2020年 以前のデータ</small>	目標値 <small>(2025年)</small>	参考値 <small>(2030年)</small>	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 <small>(なぜその数値にしたのか)</small>						設定目標の水準	目標値の算定根拠 <small>(なぜその数値にしたのか)</small>
1-1-1	地域における区民参画・協働の推進	「さまざまな地域活動団体やNPO、企業、大学、行政等の連携によるまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】	27.5	30.0	35.0	127%	③上記の間の値を設定	区民意識調査の参画・協働の同質問に「どちらかというと思う」と回答した、過去3回の割合の変動値の平均を伸び率とした。2025年から2030年まではアフターコロナを見据え目標値を上げた。	区とNPO等との協働事業の実施数【件】	219	260	300	137%	③上記の間の値を設定	これまでの実績の推移を基に、今後も区と多様な主体との協働を継続的に推進した時の目標値。
1-1-2	地域における活動・交流拠点の充実	地域活動のための施設やスペースがあり、子どもから高齢者までの多様な世代が交流している」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】	27.8	30.0	35.0	126%	③上記の間の値を設定	区民意識調査の参画・協働の同質問に「どちらかというと思う」と回答した、過去3回の割合の変動値の平均を伸び率とした。2025年から2030年まではアフターコロナを見据え目標値を上げた。	地域区民ひろばにおける事業実施回数【回】	20,111	21,500	24,000	119%	②達成を見込める現実的な数値	新型コロナウイルス感染症拡大前の2018年の事業実施数(20,111件)をベースに年間500事業程度の増加を見込んで設定した。
2-1-1	在住外国人の暮らしへの支援	「外国人にとって暮らしやすいまちであると感じる」と思う区民の割合【%】	44.1	60.0	80.0	181%	①あるべき姿の理想値	2030年度に80%を達成することを目標とし、毎年4ポイントずつ数値を上げていく設定とした。	ポランティアによる日本語教室等における学習者数【人】	4,516	2,230	4,584	102%	②達成を見込める現実的な数値	2030年度にコロナ前の水準に戻ることを目標とし、毎年15.5%の伸び率で増えていく設定とした。
2-1-2	共生意識の醸成と交流の促進	「地域で外国人との交流がある」と思う区民の割合【%】	11.9	14.0	16.5	139%	②達成を見込める現実的な数値	2025年度まではコロナ前の水準まで数値を戻すことを目標とし、その後同じ上昇幅で伸びていくことを見込んで設定した。	区民ひろばにおける異文化理解事業の件数【件】	1	26	52	5200%	②達成を見込める現実的な数値	区民ひろば(全26か所)で異文化交流事業を年2回実施することを目標として設定した。
2-2-1	平和と人権意識の普及・啓発	「地域社会において平和と人権が尊重されている」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】	29.4	31	33.5	114%	②達成を見込める現実的な数値	最新の区民意識調査結果と過去からの推移を踏まえ、達成を見込める現実的な数値として設定した。	平和・人権啓発事業の実施回数【回】	3	10	10	333%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの実績の推移をもとに実現できる限界の目標値を設定
2-3-1	あらゆる分野における男女共同参画の推進	「性別等により、差別されない社会である」と思う区民の割合【%】	29.7	42	57	192%	③上記の間の値を設定	「今の世の中は男女平等になっている」と回答した、過去3回の区民意識調査の変動値の平均を伸び率とした。	区の附属機関・審議会等の女性の参画率【%】	35.2	50	50	142%	①あるべき姿の理想値	男女半数が審議会に参画している状態が理想であるため
2-3-2	女性が輝くまちの推進	「女性が自ら望む形で働ける社会である」と思う区民の割合【%】	22.4	34	49	219%	③上記の間の値を設定	「今の世の中は男女平等になっている」と回答した、過去3回の区民意識調査の変動値の平均を伸び率とした。	就労・自己実現に係る事業における参加者数【人】	223	400	650	291%	③上記の間の値を設定	講座のオンライン化を進めることで参加方法を拡充し、オンラインによる受講者を現在の対面のみ受講者の2倍にする。
2-3-3	配偶者等暴力防止対策の充実	「配偶者等からの暴力(DV)に関する相談機関が周知されている」と思う区民の割合【%】	11.7	30	55	470%	①あるべき姿の理想値	コロナ禍によるDVの顕在化をふまえ、区民意識調査の「福祉」における「医療や介護、生活支援サービス提供体制が充実し、身近な相談窓口を安心して利用できる」に「そう思う」と回答した割合31.5%を5年後の目標値として高めに設定し、以降も、DV被害の重度化を想定し、毎年約5%ずつの高い向上を目標とした。	DV相談件数【件】	716	1,100	1,680	235%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの実績の推移をもとに平均伸び率より算出した。
3-1-1	福祉コミュニティの形成	コミュニティソーシャルワーク事業の個別相談支援件数【件】	10,451	12,500	13,700	131%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定	障害者サポート講座年間参加者数及び累計人数【人】	278 (1,694)	300 (2,714)	300 (4,214)	108%	②達成を見込める現実的な数値	毎年度、年4回のサポート講座の開催を予定しており、1回の開催につき、会場により50名から100名の参加を見込んでいる。
3-1-2	重層的・包括的なケア基盤の充実	高齢者総合相談センターの認知度【%】	54.5	60.0	65.0	119%	②達成を見込める現実的な数値	年間1%ずつの向上を目標として3人に2人は高齢者総合相談センターを認知してもらえらる状態にする。	福祉包括化推進会議の事例検討数【件】	7	60	100	1429%	①あるべき姿の理想値	各課に福祉包括化推進員の体制が浸透することで、共有すべき検討事例の増加も予想され、理想値といえるため
3-1-3	福祉サービスの質の向上と権利擁護の推進	市民後見人の登録累計者数【人】	23	30	50	217%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定	障害福祉サービス等指導検査実施回数(事業数)【回】	9	40	55	611%	①あるべき姿の理想値	現行の指導検査体制では困難な目標であるが、児童相談所設置市事務の移管による障害児通所施設の指導検査件数の増加を見込み設定
3-2-1	日常生活への支援	何かあったときの相談先に「そのような人はいない」と回答する人の割合【%】	49.3	38.0	29.0	170%	②達成を見込める現実的な数値	新宿区で40%を切っていることを参考に5年後目標値を設定。その後も同様に年間2%ずつの改善を目標に目標値を設定した。	くらし・しごと相談センターにおける利用申込者数【人】	739	780	830	112%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの利用実績の伸び率を見込み算定。

# 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)						設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)
3-2-2	就労支援の強化	くらしごと相談支援センターにおける就職率【%】	76.8	78.0	79.0	103%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定	障害者就労支援事業の件数【件】	13,718	18,665	23,416	171%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの利用実績の伸び率を見込み算定。
3-2-3	社会参加の促進	ひきこもりに関する官民連携団体数【団体】	28	36	50	179%	③上記の間の値を設定	地域とのネットワークの構築を図っていく予定。さまざまな団体との連携がうまく進めば実現可能な数値。	介護予防の担い手の当該年度の育成数【人】	40	50	55	138%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの養成スケジュール、人数を見込み算定
3-2-4	健康づくり・介護予防の推進	調整後要支援・要介護認定率【%】	19.3	18.8	18.3	105%	③上記の間の値を設定	フレイル予防・介護予防を推進する一方で、今後後期高齢者が増加し、認定率の増加も予測される中では、現実的な数値よりも高い数値である。	短期集中事業の利用人数【人】	157	280	330	210%	③上記の間の値を設定	短期集中事業を軸にした総合事業の体系へと再構築を図っていく予定であり、そのためには通所事業所数の拡充が大きな課題。その確保がうまく進めば実現可能な数値。
3-3-1	がん・生活習慣病対策等の推進	「がん・生活習慣病に関する正しい知識が広がり、がん検診や各種検診が受けやすい環境にある」と思う区民の割合【%】	57.9	60	62.5	108%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる限界の目標値として設定。	特定健診受診率【%】	37.2	53.0	55.5	149%	①あるべき姿の理想値	豊島区健康プランの数値目標と整合性のある数値を設定。
3-3-2	こころと体の健康づくりの推進	「ライフステージに合わせた、こころと体の健康づくりに関する支援が充実している」と思う区民の割合【%】	18.7	21.5	25.0	134%	③上記の間の値を設定	現状の体制で実現できる限界の目標値として2030年を25.0(区民1/4)に引き上げ、毎年0.7ポイント増を設定。	こころには赤ちゃん事業訪問率【%】	99.0	100.0	100.0	100%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定。
3-3-3	健康危機管理の強化	「感染症や食中毒等に不安を感じるものが少ない」と思う区民の割合【%】	35.1	38.0	43.0	123%	③上記の間の値を設定	現在の状況、職員体制で実現可能な段階的に実績値の増を目指していく目標値を設定。	災害医療訓練実施回数【回】	3	6	10	333%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定。
3-3-4	地域医療体制の充実	「誰もが身近な場所で適切な医療サービスの提供を安心して受けられる」と思う区民の割合【%】	48.2	49.6	50.6	105%	③上記の間の値を設定	現状の体制で実現できる値として2022年の目標値を49.0%とし、以降0.2%の上昇を設定。	専門職向け研修開催回数	10	10	10	100%	②達成を見込める現実的な数値	第8期介護保険事業計画(2021年度～2023年度)において、同様の目標値を設定しているため。
4-1-1	子どもの社会参加・参画の促進	「子どもが自主的に地域や社会の活動に参加できる機会がある」と回答した割合【%】	20.7%	23.9%	27.9%	135%	②達成を見込める現実的な数値	過去の区民意識調査の結果をもとに、現状値を基礎とし、毎年0.8ポイントずつ上昇させることを目標に設定した。	子どもスクープ及び中高生センタージャンプにおける「利用者会議」開催数【回】	66回	91回	102回	155%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの開催実績をもとに、スクープは年3回(学期ごと)、ジャンプは毎月開催することを目標に設定した。
4-1-2	困難を有する子ども・若者やその家庭への支援	発達相談から専門相談につながった割合【%】	52	55	60	115%	③上記の間の値を設定	相談員数や施設のキャパシティに限界がある中、実現可能性のある最大値として設定した。	発達相談件数(西部子ども家庭支援センター)【件】	5,645	5,700	5,800	103%	②達成を見込める現実的な数値	子ども家庭支援センターの相談事業における発達に関する相談は、年々増加傾向にあり、減少要因もないため、現実的な数値として算定した。
4-1-3	虐待や暴力から子どもを守る取組の強化	児童虐待取扱件数に対する改善率【%】	64	90	100	156%	①あるべき姿の理想値	区が目指す「児童虐待ゼロ」に向けた決意を示すため、チャレンジングな指標として設定した。	要保護児童対策地域協議会の取扱件数【件】	995	1,120	1,200	121%	②達成を見込める現実的な数値	近年の児童虐待取扱件数の傾向を踏まえ、当面は増加傾向が続くと想定し設定した。
4-2-1	地域の子育て支援の充実	子ども家庭支援センター等での子育てに関する相談件数【件】	31,460	36,000	37,000	118%	①あるべき姿の理想値	コロナ禍以前の増加傾向(前年比9ポイント程度)を踏まえ、アフターコロナを見据え、漸増傾向が続くものとして設定した。	子ども家庭支援センターの利用者数【人】	71,958	75,000	80,000	111%	③上記の間の値を設定	近年の利用者数の状況をもとに、withコロナ及びコロナ禍の収束を見据え、利用者は漸増していくものと見込んだ。
4-2-2	保育施設・保育サービスの充実	待機児童数【人】	0	0	0	100%	②達成を見込める現実的な数値	現在の待機児童数ゼロを維持することを目標に設定	保育施設利用定員数【人】	6,940	8,289	8,289	119%	②達成を見込める現実的な数値	直下の減少局面を迎えた人口動態から勘案すると、乳幼児人口の増加を見込むことは困難であり、保育需要の見直しも立たないことから、25年の数値を維持することで待機児童ゼロを維持していくため、目標値として設定
4-3-1	確かな学力の育成	全国学力調査における学校質問紙調査(習得・活用及び探究の指導方法の改善及び工夫の実施率)【%】	小6 86.4 中3 75.0	小6 88.0 中3 80.0	小6 100 中3 100	133%	①あるべき姿の理想値	国の計画の目標値に基づいて設定	I C Tを活用した授業力向上に関する研修講座(学校訪問も含む)【回】	190	215	240	126%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値
4-3-2	豊かな心の育成	心理検査の「自己肯定感」の設問における肯定的回答率【%】	小6 73.3 中3 68.2	小・中ともに80	小・中ともに85	125%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値	全国学力調査における児童生徒の意識調査(いじめはしてはいけない)の回答率【%】	小6 95.6 中3 95.1	小・中ともに98.0	小・中ともに100	105%	①あるべき姿の理想値	国の計画の目標値に基づいて設定

# 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)						設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)
4-3-3	健やかな体の育成	児童・生徒の区意識調査「運動肯定率」【%】	小6 80.1 中3 81.1	小6 82.5 中3 82.5	小6 85.0 中3 84.0	106%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値	東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査体力合計点【ポイント】	小6 61.4 中3 48.8	小6 62.5 中3 50.0	小6 63.6 中3 51.5	106%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値
4-3-4	一人一人を大切に する教育の推進	不登校の児童・生徒が学校や関係機関から支援を受けている率【%】	95.4	100	100	105%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値	学校復帰率【件】	38.1	43	48	126%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値
4-3-5	教師力の向上と魅力ある学校づくり	区児童生徒意識調査「授業の理解度」【%】	小6 55.4 中3 41.7	小6 60 中3 50	小6 65 中3 55	132%	①あるべき姿の理想値	国の計画の目標値に基づいて設定	オンラインを活用した研修の回数【回】	8	20	50	625%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値
4-4-1	家庭教育の支援	「家庭教育に対する支援が充実している」について肯定的な回答をする割合【%】	7.0	10.0	15.0	214%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値	家庭教育講座の実施数【回】	1	17	20	2000%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値
4-4-2	地域と学校の連携・協働の仕組みづくり	「学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している」の回答割合【%】	87.0	90.0	90.0	103%	②達成を見込める現実的な数値	回答割合100%は現実的ではなく、90%が実現できる理想値	区内小中学校全30校のうちコミュニティ・スクール設置校数【校】	0	11	30	-	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値(全30校への導入)
4-4-3	地域教育力との連携	児童・生徒の地域への愛着【%】	小6 66 中3 62	小6 90 中3 90	小6 100 中3 100	161%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる理想値	地域人材を活用した放課後子ども教室の実施回数【回】	212	2,300	2,350	1108%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値
4-5-1	人格形成の基礎を 培う教育・保育の 提供	学校・園は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている【%】	70.5	75.0	80.0	113%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値	区立幼稚園3園のうち認定こども園へ移行した公立園数【園】	0	1	2	-	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現できる理想値
5-1-1	みどりの活動拠点 の創造・育成	「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合【%】	49.5	50.0	55.0	111%	③上記の間の値を設定	全体の半分以上は満足してほしいという理想値と現状値を踏まえ、目標値を設定。	占用許可を含むイベントや花壇の手入れなどの実施件数【件】	733件	805件	930件	127%	②達成を見込める現実的な数値	現状体制を考えた実績値を基準に、コロナ禍後のイベント開催等を踏まえて設定。
5-1-2	みどりのネットワー クの形成	みどり率【%】	14.1	14.2	14.3	101%	②達成を見込める現実的な数値	みどりに覆われている場所の考え方が、緑被率からみどり率へ代わってきており、現実にあわせて目標値を設定。	幹線道路の街路樹の設置割合【%】	79.0	83.0	87.0	110%	②達成を見込める現実的な数値	街路樹を植栽できる道路は限られており、整備状況を踏まえて設定。
5-2-1	脱炭素地域社会づ くりの推進	区内温室効果ガス排出量【千t-CO2】	1,580	1,181	900	176%	①あるべき姿の理想値	2050年ゼロカーボンシティを宣言した自治体として、国に準拠した目標を設定。	再生可能・省エネルギー機器等導入助成累計【件】	2,192	2,800	3,500	160%	①あるべき姿の理想値	CO2排出されない、或いは排出を抑制する設備導入による効果が大きく、過年度の推移を助成し、今後の目標値とした。
5-2-2	自然との共生の推 進	「多様な生きものが息息・生育できる環境づくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	11.6	14.3	17.4	150%	②達成を見込める現実的な数値	過去最高の現状値を更に現状の50%増とする回答率を目標値とした。	生きもの調査等に参加する区民(累計)【人】	687	883	1,258	183%	①あるべき姿の理想値	2025年度までに現状から50%増の参加者が達成できれば、自然観察への関心が高まるとともに、調査サンプル数も増えるため、同傾向を2030年度の目標値と定めた。
5-2-3	地域美化の推進	路上喫煙率【%】	0.05	0.04	0.03	167%	③上記の間の値を設定	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定。	環境美化に関する活動への参加人数【人】	14,984	18,000	19,000	127%	③上記の間の値を設定	これまでの実績の推移を基に、環境美化に関する活動への多様な主体による参加を促進していくための目標値として設定した。
5-2-4	都市公害の防止	VOC(揮発性有機化合物)排出量【kg】	9,273	8,340	7,500	124%	②達成を見込める現実的な数値	年々増加しているVOC排出量を2025年までに2018年の水準に戻し、以後も削減率を同水準で維持し、排出量を削減するよう設定。	解体工場現場への立入検査件数【件】	61	260	360	590%	①あるべき姿の理想値	東京都は改正大気汚染防止法による届出件数の6%の立入検査により事業者指導を網羅できているため、豊島区の想定届出件数(6,000件)の6%を目標値に設定した。
5-3-1	3Rの推進	区民一人1日あたりのごみ量【g/人日】	520	482	470	111%	③上記の間の値を設定	プラスチック資源の分別収集導入によるごみ減量効果を見込んでいる。正しく分別がされれば達成が見込める数値として設定した。	3 Rに関して発信した件数【回】	48	56	66	138%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの発信件数を基準に、SNSでの発信を増やしていくことで、現実的に達成を見込める数値を設定した。

# 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)						設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)
5-3-2	安定的で適正なごみ処理の推進	「ごみの収集が円滑に行われており街がきれいに保たれている」と思う区民の割合【%】	62.2	66.0	71.0	114%	③上記の間の値を設定	プラスチック資源の分別収集導入に伴う分別ルールの変更を予定している。分別状況が悪くならないようしっかり周知を行うことで達成が見込める数値として設定した。	不法投棄回収件数【件】	4,303	4,050	3,800	113%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの実績の推移をもとに不法投棄対策を継続して実施することで達成可能な数値として設定した。
6-1-1	地域の特性を生かした市街地の形成	「地域特性にあわせてまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】	34.3	39.0	44.0	128%	①あるべき姿の理想値	各地域で展開されている、地域特性を生かしたまちづくりの成果として、今後も毎年1%以上の上昇を見込み設定した。	地区計画の面積【ha】	368	369	373	101%	①あるべき姿の理想値	現在、各地域で展開(検討を含む)されている地域特性を生かしたまちづくりが順調に進捗した場合に想定される地区計画の面積を設定した。
6-1-2	池袋副都心の再生	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	46.5	50.0	55.0	118%	①あるべき姿の理想値	堅調に上向いている「肯定的な意見」について、今後も継続的に上昇していくことを想定	池袋駅周辺地域再生委員会等の累計開催数【回】	15	40	65	433%	③上記の間の値を設定	まちづくりの目標年次である2035年に向けた、民間都市整備事業の進展に合わせて開催数が増加するものであり、今後想定されるプロジェクトに伴う目標値を設定
6-1-3	活力ある地域拠点の再生	「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】	56.6	57.0	62.0	110%	①あるべき姿の理想値	堅調に上向いている「肯定的な意見」について、今後も継続的に上昇していくことを想定	区の管理する駅前広場におけるイベントの申請件数【回】	17	35	40	235%	①あるべき姿の理想値	駅前広場における魅力や利便性は、実際に使用して増大するものであり、地域イベント数の増加を想定し目標値を設定
6-1-4	居心地が良く歩きたくなる空間づくり	「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】	32.7	37.0	42.0	128%	①あるべき姿の理想値	堅調に上向いている「肯定的な意見」について、今後も継続的に上昇していくことを想定	エリアマネジメントの団体数【団体】	2	5	6	300%	②達成を見込める現実的な数値	現状における公園など地域拠点で実現できる目標値を設定
6-2-1	安全・安心に住み続けられる住まいづくり	「現在住んでいる地域に住み続けたい」と思う区民の割合【%】	38.0	41.0	46.0	121%	②達成を見込める現実的な数値	最新の区民意識調査結果と過去からの推移を踏まえ、達成を見込める現実的な数値として設定した。	家賃低廉化補助件数(累計)【件】	2	17	32	1600%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定した。
6-2-2	良質な住宅ストックの形成	管理状況届出書届出率(合算)【%】	74.2	80.0	85.0	115%	②達成を見込める現実的な数値	届出率の過去からの推移と、実施する事業の進捗により、達成を見込める現実的な数値として設定した。	地域貢献型空き家利活用事業における補助件数(累計)【件】	3	10	20	667%	①あるべき姿の理想値	現状の体制で実現できる限界の目標値を設定した。
6-3-1	総合交通戦略の推進	「鉄道・バス等の交通が便利である」と思う区民の割合【%】	85.8	88.0	90.0	105%	②達成を見込める現実的な数値	現状でも高い割合で推移しており、IKEBUSがまちの移動手段としてさらに活用されることが期待され、実現可能な目標として設定した。	区内の都市計画道路の整備状況【%】	65.9	82.2	90.0	137%	②達成を見込める現実的な数値	今後の都市計画道路の整備の進捗予測から具体的な整備割合を算出し目標値を設定した。
6-3-2	道路・橋梁の整備と維持保全	遮熱性舗装の累計面積【㎡】	38,757	46,000	53,500	138%	②達成を見込める現実的な数値	ヒートアイランド対策が進展していることを示す指標のため	改修・補修済の橋梁数【橋】	12	12	14	117%	②達成を見込める現実的な数値	これまでの実績の推移をもとに実現できる限界の目標値を設定
6-3-3	自転車利用環境の充実	自転車走行環境整備済路線【km】	2.3	23.1	33.5	1457%	①あるべき姿の理想値	2018策定の豊島区自転車走行環境計画の目標値に基づき設定。コロナの影響により、2020、2021と未実施。2022計画の中間見直し予定。	駐輪場における子供乗せ大型自転車等スペース確保【台】	292	313	330	113%	②達成を見込める現実的な数値	現在の年あたりの整備状況を基に、現実的な目標値を設定。
6-4-1	災害に強い都市空間の形成	密集事業地区内の不燃領域率【%】	64.4%	70%	70%以上	109%	③上記の間の値を設定	不燃領域率は市街地の「燃えにくさ」を表す指標であり、70%を超えると延焼による市街地の焼失率がほぼゼロになるといわれているため密集改善の目標値として設定している	不燃化特区・都市防災不燃化促進事業助成金件数【件】	177件	247件	令和7年度にて事業終了予定	140%	③上記の間の値を設定	建築物の耐火・耐震性の進捗を示す指標であるため、過年度実績から見込み件数を算出した。
6-4-2	自助・共助の取組みへの支援	「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」と思う区民の割合【%】	12.0%	17.5%	25.0%	208%	①あるべき姿の理想値	現状値で満足することなく、当課が考える必要不可欠な理想の割合であると考えるため。	合同防災訓練【回】	2	18	18	900%	②達成を見込める現実的な数値	全35か所の救援センターで年に1回の実施は困難であり、半分程度が実施可能な数値であるため。
6-4-3	被害軽減のための応急対応力向上	「震災時の避難、救援体制など、まち全体として災害への備えができていく」と思う区民の割合【%】	15.3%	17.0%	24.5%	160%	①あるべき姿の理想値	現状値で満足することなく、当課が考える必要不可欠な理想の割合であると考えるため。	防災協定締結自治体・民間団体等との協定見直し件数【件】	5	10	10	200%	②達成を見込める現実的な数値	協定の見直しは、相手方との協議を必要とするため、他業務と並行しての取り組みとして達成可能な数値とした。
6-4-4	無電柱化の推進	区道における無電柱化率【%】	7.6	8.1	8.4	111%	②達成を見込める現実的な数値	現状で実現できる限界の目標値を設定。	事業化率【%】	50	60	60	120%	②達成を見込める現実的な数値	現状で実現できる限界の目標値を設定。2025と2030の目標値が同じである理由は、計画どおりに事業化できた場合でも同じ数字になるため。

# 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)						設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)
6-4-5	総合治水対策の推進	雨水流出抑制対策量[万㎡]	5.0	9.0	13.8	276%	①あるべき姿の理想値	神田川及び石神井川流域に位置する関係区市において、時間75mm降雨に対処すべき雨水流出抑制対策量が東京都総合治水対策協議会により定められているため	雨水樹清掃件数[箇所]	8,808	9,000	9,500	108%	②達成を見込める現実的な数値	ゲリラ豪雨等の対応には、日頃からの点検・清掃が必要であり、既存施設の機能を最大限とするため、雨水樹の清掃件数
6-5-1	治安対策の推進	区内の刑法犯認知件数[件]	3,193件	2,600件	2,100件	152%	③上記の間の値を設定	現状で実現できる限界の目標値を設定	環境浄化パトロール実施回数[回]	15回	120回	120回	800%	④その他	年間実施の現実的な最大値であり、3日に1回実施している状況となる。
6-5-2	交通安全対策の推進	区内の自転車乗用中の交通事故発生件数[件/年]	246	221	196	126%	③上記の間の値を設定	食品配達サービスの普及など自転車を取り巻く環境が変化しているが、過去の推移を基に、更なる減少を目指した目標値を設定	幼児・児童及び高齢者用自転車ヘルメット補助個数[個/年]	602	625	650	108%	②達成を見込める現実的な数値	過去の推移を基に、現実的な目標値を設定
7-1-1	新たな価値を生み出すビジネス支援	区内新設法人数[件]	1,388	1,450	1,550	112%	②達成を見込める現実的な数値	過去の新設法人数の実績を考慮し、5年間で5%の増加を見込んで算定	起業支援者数+特定創業証明書発行件数[件]	249	275	300	120%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現可能と思われる最大値を目標値に設定
7-1-2	地域産業の活力創出	商店街イベント事業来場者数[万人]	114	125	135	118%	②達成を見込める現実的な数値	商店街数の推移と過去の実施状況を踏まえ達成を見込める最大値を設定	商店街イベント事業件数[件]	27	60	65	241%	②達成を見込める現実的な数値	商店街数の推移と過去の実施状況を踏まえ達成を見込める最大値を設定
7-1-3	権利と責任による消費者市民社会の形成	「消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実している」と思う区民の割合[%]	9.7	12.0	14.5	149%	②達成を見込める現実的な数値	現在の体制での今後の啓発事業の実施回数や参加見込み者数を踏まえた推計最大値を設定	出前講座等参加人数[人]	491	600	700	143%	②達成を見込める現実的な数値	現状の体制で実現可能と思われる最大値を目標値に設定
7-2-1	観光資源の発掘と活用	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合[%]	28.9	33.0	38.0	131%	③上記の間の値を設定	区民意識調査に入れ込んだ初めての調査項目であり、理想値と現実的な値の間をとった目標値とした。	トキワ荘マンガミュージアム及び関連施設年間来館者数[人]	69,717	200,000	300,000	430%	①あるべき姿の理想値	トキワ荘マンガミュージアムのみでなく、街に広がるマンガゆかりの関連施設で連携し、街の魅力を高め、地域に訪れる理想の目標数値を設定
7-2-2	魅力的な観光情報の発信強化	「区の観光情報を提供するための素材を簡単に手に入れられる」と思う区民の割合[%]	20.8	27.0	32.0	154%	②達成を見込める現実的な数値	過去の区民意識調査の数値を踏まえて達成しうる数値を記載	区ホームページ月平均アクセス件数(観光)[件]	135,159	200,000	300,000	222%	①あるべき姿の理想値	Webによる情報収集が活発になるなかで、今後のIKE-CIRCLEの充実などを加味したうえでの想定しうる最大値の数値を目標値とした。
7-2-3	交流都市との共生の推進	「区内で地方の特産品や観光情報などを入手する機会がある」と思う区民の割合[%]	20.7	27.0	32.0	155%	②達成を見込める現実的な数値	事業の実施により区民意識調査の質問内容に関する理解が各年1ポイントずつの上昇を見込むかたちで目標値を設定した。	ファーマーズマーケット出店自治体数[件]	7	50	100	1429%	②達成を見込める現実的な数値	区民と交流都市との接点としてファーマーズマーケットへの出店自治体数(延べ)を選定した。概ね半数程度の交流都市の出店を目標とした。
7-2-4	多様な来街者の受入環境の整備	区内を訪れた国内外の人々に満足いただける受け入れ環境が整っている」と思う区民の割合[%]	15.6	20.0	25.0	160%	③上記の間の値を設定	過去の区民意識調査の数値を根拠に達成可能性を見込める数値を記載	外国語観光ボランティアガイド年間活動延べ人数[人]	76	200	275	362%	③上記の間の値を設定	コロナ禍により登録ボランティアの活躍の場がない状況だが、コロナ前の平成30年度に252件で最高値を出しており、アフターコロナにおけるやや高めの実現的な目標値として設定
8-1-1	文化芸術の鑑賞・参加機会の創出	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と思う区民の割合[%]	31.4	52.0	62.0	197%	②達成を見込める現実的な数値	平成29年度以降、本指標は概ね2ポイントずつ上昇しているところ、このペースでの上昇を維持する目標値とした。	区立劇場、ホール、野外劇場の年間来場者数[万人]	12.5万人	50.4万人	50.4万人	403%	①あるべき姿の理想値	芸術文化劇場、ホール、野外劇場の定員と利用可能日数より算出したもの。50.4万人が概ね最大値となるので25年と30年が同一値となる。
8-1-2	地域文化・伝統文化の継承と発展	「歴史的財産である文化財や文化資源が大切に保存・活用されている」と思う区民の割合[%]	33.2	49.0	60.0	181%	①あるべき姿の理想値	数値は、頭打ちしているが、保存活用事業を周知し、大きく改善を図ることを目標とした。	郷土資料館・雑司が谷旧宣教師館・鈴木信太郎記念館の入館者数及びワークショップ・イベント参加者数[人]	28,121人	41,208人	55,000人	196%	①あるべき姿の理想値	コロナ禍による臨時休館やイベント等の中止が多く、大きく落ち込んでいるが、コロナ前の数値5万3千人を超える5万5千人を目標とした。
8-2-1	多様な学習活動の支援と学びの循環の創造	「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合[%]	8.5	9.4	10.4	122%	①あるべき姿の理想値	地域文化創造館で実施している事業に参加したことがあると回答した人の割合(成果指標①)のうち20%が活動をしていると数値目標を設定。2021年実績値、事業に参加したことがある区民の割合が、36%、地域で活動をしている区民の割合が、7.4%。	学習成果の発表機会数[回]	91	620	670	736%	②達成を見込める現実的な数値	2025年までにコロナ前の水準に戻し、2030年に向けて1年間に10の増を想定。

# 施策の進捗状況を測る参考指標の目標値の設定根拠について

施策番号	施策名	成果を測る参考指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠		活動指標	現状値 (2021年) <small>※ない場合は2020年 以前の年度</small>	目標値 (2025年)	参考値 (2030年)	参考 対2020 比	2030目標値の設定根拠	
							設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)						設定目標の水準	目標値の算定根拠 (なぜその数値にしたのか)
8-2-2	スポーツ・レクリエーション活動の推進	「週に1回以上スポーツを実施する」18歳以上の区民の割合【%】	49.0	70.0	70.0	143%	①あるべき姿の理想値	「東京都スポーツ総合推進計画(平成30年3月策定)」と同じ目標値とした。	区立体育施設利用者数【人】	705,589	1,450,000	1,580,000	224%	②達成を見込める現実的な数値	コロナ前の利用者数の回復を目指すとともに、過去の推移を参考に年間利用人数の増加を想定した。
新たな行政経営①	スリムで変化に強い行政経営システムの構築	あなたは、区内の経済状況や区民需要の変化に応じた柔軟な区政運営ができていますか【%】	49.6	55.0	60.0	121%	①あるべき姿の理想値	現状値や、内閣支持率等の数値を踏まえ、現実的な目標値として2030年に60%とした。	行政評価実施事業数【事業】	363	630	630	170%	②達成を見込める現実的な数値	行政評価の実施数は予算事業区分と評価対象の規定により変動するが、それらの変更を想定していないため現状維持を目標とした。
新たな行政経営②	適正な定員管理	職員給比率※【%】 ※職員給÷経常一般財源等×100	17.0% (速報値)	17.0%	17.0%	100%	④その他	現状値を踏まえ、令和2年度の決算値(速報)をベースに設定した。	区管理職に占める女性の割合【%】	21.2	30.0	30.0	142%	①あるべき姿の理想値	豊島区職員のライフステージ応援計画(特定事業主行動計画)、としま男女共同参画推進プランの目標値
新たな行政経営③	デジタルガバメントの構築	オンライン手続きメニュー数【件】	23	80	200	870%	①あるべき姿の理想値	令和2年度23区TOPの中野区(222件)と同等レベルまでもっていくことを理想値と設定	コンビニ交付発行件数【件】	92,763	140,000	240,000	259%	①あるべき姿の理想値	年間総手続き数(窓口等)30万件のうち8割を理想値と設定
新たな行政経営④	持続可能な財政構造の確立	経常収支比率【%】	85.9	70~80	70~80	107%	①あるべき姿の理想値	一般的に、70~80%が適正水準とされているため、	特別区民税収納率【%】	96.81	97.26	97.76	101%	②達成を見込める現実的な数値	直近3年の上昇ポイント平均+0.15pを踏まえ、現状の体制で実現できる現実的な目標値を設定
新たな行政経営⑤	まちの魅力を高め、区民の生活を支える戦略的な情報発信	区政情報が伝わっていると感じる区民の割合【%】	49.0	60.0	80.0	-	①あるべき姿の理想値	情報入手チャネルの多様化に応じた、きめ細やかな情報発信により、多くの区民に区政情報が着実に伝わることを目指した理想値を設定。	新聞(6大紙+都政新報)の掲載率【%】	53.0	63.0	75.0	142%	①あるべき姿の理想値	職員の広報マインドの醸成等により、メディアを活用した戦略的な広報が展開されていることを目指した理想値を設定。
新たな行政経営⑥	公共施設等の総合的かつ計画的なマネジメントの推進	区が保有及び管理する施設の延床面積 S44年以前の区が保有する施設の延床面積	約44.3万㎡ 約9.0万㎡	約45.1万㎡ 約7.7万㎡	約45.1万㎡ 約7.7万㎡	102% 117%	③上記の間の値を設定 ③上記の間の値を設定	建物施設の保有量は、改修・改築費や維持管理経費の増減につながる指標であることから設定した。 高度経済成長期に集中して建設された施設更新が課題となっているため、その更新状況を把握するために設定した。	橋梁及び公園施設の長寿命化進捗率	橋梁33% 公園37%	橋梁33% 公園73%	橋梁66% 公園100%	200% 270%	③上記の間の値を設定 ③上記の間の値を設定	橋梁及び公園施設が中長期的に安全に維持されていくことを示す指標であることから設定した。

※設定目標の水準は4つから選択(①あるべき姿の理想値、②達成を見込める現実的な数値、③上記の間の値を設定、④その他)